２０２２・２・２０　　黄金井尚美　主任牧師

＜Rise！　Let us go !＞

マルコ１４：３７～４２

目を覚まして祈り続けることが出来なかった弟子達。
そしてイエス様が、囚われる時が来た。イエス様は祈り終えて言われた。
「立ちなさい。さあ行くのです。」

【ゲッセマネの園での祈り】
震えるような悲しみに襲われながら、天の父なる神の御心に従い通そうと、
イエス様がいのちを振り絞って祈った祈り。このそばに弟子達もいた。

♦イエス様は一緒に祈ることを求められた。
祈りは一方向ではなく、双方向。
自分の心の内にある事を神に聞いていただく、知っていただくだけではない。
父なる神の御心が何であるかを知ろうとする。これが重要。

♦神の御子をなんとか十字架から引きずり降ろそうとする、サタンの激しい揺さぶりに打ち勝つ祈りだった。

♦イエス様の心は深い悲しみで一杯だった。

その悲しみとは・・・・神の怒りをご自分が身に受けること。

それは、父なる神に見捨てられること。罪人とされる事。

立ち上がる力を奪うほどのもの。

イエス様の姿と、弟子達の姿は全く対照的。

「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈り続けなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

２８節

弟子達はイエス様に従うという意志、熱意はあったが、それが出来なかった。

イエス様は、そのような私たちの性質を知り尽くしておられる。

イエス様は弟子達を責められなかった。責めたのは、弟子達自身。

３度も同じことを繰り返して寝入ってしまった。顔向けできない。情けない。

そのような者に向かってイエス様は、

「立ちなさい。さあ一緒に行こう」といわれた。

♦さあ行こうと言われた、その向かう先はどこを指していたのだろうか・・・？

弟子達はイエス様を見捨てて逃げ、一緒に行くことはできなかった。

イエスもそうなることを知っていたのに。

♦語られたことばは、その時わからなくても、後になって分かってくることがある。

Rise! Let us go!

・イエス様は勝利者になるまでの道のりを、ご自分の身を持って弟子達に刻み付けた。

・使徒として、福音を伝える者に変えられた弟子達の心に生涯響き、宣教の働きを全うしていく厳しい道のりを力強く支えた。